

平成28年度
環境学習支援士養成プログラム
課題研究発表会
(資 料)



滋 賀 大 学

プログラム

日時 3月20日(月) 14時～

場所 滋賀大学教育学部視聴覚教室

14:00～14:05 開会

14:05～14:25 徳田 栄美子 (社会人コース)
「山門水源の森」の魅力とその取り組み

14:25～14:45 谷 清隆 (学生コース)
滋賀県で近年大繁茂するオオバナミズキンバイと第16回世界湖沼
会議発表事例による世界の環境問題に関する考察

14:45 閉会

『「山門水源の森」森の魅力とその取り組み』

滋賀大学環境学習支援士プログラム（社会人コース）

徳田 栄美子

1、はじめに

滋賀県西浅井町山門（やまかど）にある「山門水源の森」、その山門水源の森の中にある湿原は4万年前に形成されたともいわれ、昨今、ハイキング客が京阪神などから5000人と訪れ、大変なにぎわいを見せている。

四季折々に彩を見せるこの森には、氷河期からの生き残りと言われるミツガシワをはじめ、希少種の植物が多く生育している。早春の草花、新緑の木々、夏の昆虫、紅葉の樹木、冬景色と、この森の景色と生物の多様性は、多くの来訪者の感動を誘うのである。

しかし、ここに至るまでこの「山門水源の森」には、その年代毎に歴史がある。その歴史のストーリーと、この「山門水源の森」の魅力、またこの森に携わる「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」の会員や関係する人々にせまってみた。

2、調査方法

それぞれの季節に「山門水源の森」のハイキングコースを訪ねた。また、「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」の会員やボランティアが関わる保全作業を体験し、森と湿原の様子を観察した。

そして、「山門水源の森」の来訪者に、この森に関するアンケートを実施、また、2016年10月に「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」が琵琶湖博物館で実施した展示会の来場者にもアンケートを実施し、それを比較した。

3、結果

今年もこの森には多くの来訪者があった。他にも、子どもたちや、県内外の学校生徒がボランティア作業や環境学習に訪れた。この森はハイカーのリピーターも多くやってくる。それはアンケート調査でも明らかになった。それがこの森の魅力の深さを物語っている。

アンケート調査では、山に行ったことがある人の意識と未経験の人の意識の違いもわかった。山を一度でも経験すると、身近な自然と感じるが、未経験だと、遠いや汚れるという意見もあるくらいなのだ。多くの人に山への関心を持ってもらうには、まだまだ周知していかなければいけないことも多く、課題も山積している。

しかし、これからこの環境を維持していくためには、人の注目や関わりが欠かせない。

会員や携わる人々の活動や努力は、「山門水源の森」が掲げるビジョン 2050 で、これからも続いていくことを確信する。

滋賀県で近年大繁茂するオオバナミズキンバイと

第 16 回世界湖沼会議発表事例による世界の環境問題に関する考察

学籍番号:2013832

滋賀大学経済学部情報管理学科 4 年

谷 清隆

1. はじめに

滋賀県琵琶湖では戦後の経済発展に伴い、様々な環境問題にさらされており、近年琵琶湖南湖での外来種の水草の大繁茂が問題視されるようになっており、中でも「オオバナミズキンバイ」と呼ばれる外来水草が問題視されている。今回、オオバナミズキンバイの特長と悪影響などをまとめ、2015 年に繁茂していたオオバナミズキンバイの分布を調査した。また、NPO 法人国際ボランティア学生協会の一員として参加した第 16 回世界湖沼会議で世界の環境問題の事例について学び、日本と世界(発展途上国)での環境問題の違いを比較・考察した。

2. 調査方法

2013 年より滋賀県や琵琶湖博物館、滋賀県立大学、近江ウエットランド研究会などからお聞きしたオオバナミズキンバイの特長や悪影響などや滋賀県の琵琶湖外来水生植物対策協議会の総会資料を基にオオバナミズキンバイについてまとめた。また、実際にフィールドワークとして 2015 年に琵琶湖南湖で繁茂していたオオバナミズキンバイの調査を行なった。

3. 調査結果・考察

下記写真より、オオバナミズキンバイは南湖全域に分布しているが 2015 年は特に守山市・草津市で繁殖している場所が多いことがわかる。守山市は 2009 年にオオバナミズキンバイが発見された場所であることから、群落が多く存在していることは予測できるが南湖の東側に多くの群落が存在している原因としては、比叡山から吹き下ろす風が関係しているのではないかと考えられる。

また、第 16 回世界湖沼会議ではインドの学校に水の浄化装置を設置することが子どもの通学率の向上に繋がることや企業の養殖施設による水質汚染により周辺地域で環境問題になっている事例を学び、日本で過去に発生した環境問題が発展途上国では今まさに発生しており、先進国の環境問題の解決策が発展途上国で求められていることを知り、今先進国が直面している環境問題は今後発展途上国で再び問題となっていくことを感じ、今は外来水草の大繁茂は発展途上国でそれほど注目されていないかもしれないが、今後のために事例を伝えていく必要性をととも感じた。



【写真】オオバナミズキンバイの分布